

# 創立70周年 有機合成薬品工業

## 受け継がれる「ものづくり」へのこだわり

### 次世代を見据え、時代の変化 機敏に対応

有機合成薬品工業は11月4日に創立70周年を迎える。たばこ香料の製造から始まり、現在ではアミノ酸、化成品、医薬品の3事業を柱とするフライングケミカルメーカーに発展した。「ものづくり」にこだわる姿勢は創業当時から脈々と受け継がれたものであり、同社の土台を成している。来春には生産拠点である常磐工場（福島県いわき市）に、いよいよ医薬品原薬・中間体の新プラントが完成する。これで中期経営計画に掲げる医薬品事業の拡大に弾みがつくと同時に、3事業がバランスよく成長していくための下地が整う。さらに次の80周年、100周年を見据え、技術立社として時代の変化に機敏に対応していく。舵取りを担う松井勝社長に今後の方針などを聞いた。

▼70年の歴史の中で薬がもたらした経歴の理念、会社としての姿勢を聞かせてください。

企業理念は「内外のあらゆる技術を駆使して人の役に立ち入ることによるものを創る」。経営理念は「フライングケミカルに機軸を置き、品質と技術を結集した真の「ものづくり」に挑戦します」。また、いずれも70年の歴史の中で培われたものだと思います。

当社は戦後間もない1947年（昭和22年）たばこ香料の製造・販売を目的に「有機合成工業株式会社」として誕生しました。当時、東京大学の学生だった創業者が、独自の合成技術を駆使して世の中役に立つものをつくってほしいという思いがスタートでした。このベンチャー精神が、ものづくりにこだわる現在の当社の姿勢を受け継がれていると思います。

▼時代の要請とともに、会社はどのように変化したのでしょうか。

たばこ香料から始まり、その後、天然アミノ酸のグリシンを合成でつくって取り組み、



創立70周年を迎え、これまでの変遷や今後の事業方針を語る松井社長



時代の変化に対応し成長を支え続ける生産拠点の常磐工場

これをベースに食品添加物や医薬品に展開しました。また、ヒリソシ誘導体を生産し、結核の薬やビタミンを手掛け始めました。その後、ケイ素化合物の取り扱いを始め、これを中心に化成分野にも展開できるようになりました。4年ほど前にたばこ香料事業からの撤退を決定し、アミノ酸、化成品、医薬品を3本柱とする現在の事業形態になりました。

福島県いわき市に常磐工場がある当社は、福島第一原子力発電所の事故による風評被害の影響を受けました。かつて100億円を超えた時期もあった売上高は、この影響で落ち込んでいきましたが、17年3月期まで3期連続で100億円を超え、業績も持ち直してきました。

▼3カ年中期経営計画は2年目を迎えています。目指す姿を教えてください。

最終年度である18年度に売上高105億円、営業利益7億円、経常利益6億8000万円、当

### 原薬・中間体新プラント完成へ 医薬品事業拡大に弾み

▼会社の発展を支える3事業それぞれの拡大策を聞かせてください。

アミノ酸事業は日本国内では食品添加物や畜産用輸液用薬などに使われていますが、海外でも食品添加物を中心とした用途を提案し市場を広げていっています。半導体分野の用途もさ

重点課題としては、アミノ酸事業を再生、再構築し、今以上に世界近開する収益の柱にする予定です。もう一つは、来春3月の完成をめぐり常磐工場に建設中の医薬品原薬・中間体の新プラントをしっかりと立ち上げることで、中長期の飛躍のポイントにするつもりです。化成品事業については、具体的に中計で触れていませんが、船底塗料用原料など好調に推移しています。



医薬品原薬・中間体の新プラント完成予想図

既存プラントは新規案件用には活用していく計画であり、当面の生産量の拡大には充分対応可能です。

▼顧客とコミュニケーションを密に

化成品事業では、世の中が変化していくなかで、とくにこの事業で何ができるかを考えていく必要があると思っています。その一つがタイヤコド接着剤用原料です。カソリン車からハイブリッド車や電気自動車へ

沿って進めていくとともに、さらにインフラを強化していき

高齡化社会を迎えるなかでヘルスケアビジネスが重要です。これには医薬品事業計画通りに進めることも、国内で食品添加物を中心に展開しているアミノ酸事業もグローバルに考えた場合、やれることはいっぱいあると思います。化成品事業も間接的に貢献できると考えています。また、バイオ医薬や抗体医薬などの分野もかわつていきたいと思います。

グローバル展開では、ドイツのデュッセルドルフ事務所も活用していきます。これは今年7月、現地で新たに1人採用するなかで拡充しており、3事業分野の市場開拓と動きを進めます。アジアは出張ベースで対応するものの、調達分野も含めもっと広げていきたいと思っています。また、新規ビジネス開拓のためオーストラリア・ベトナムの表現に向けてアミノ酸や

材料電池車へと変わることでも求められるタイヤの機能も変化していきます。

この70年間、ものつくりと技術で成り立ってきた会社です。この姿勢は変えるつもりはありません。さらに技術をつなぐにつれて、ものづくりにこだわっていきます。これからAI（人工知能）、IoT（モノのインターネット）が化学産業の生産現場に導入されていくので、これらの新しい技術の確に取入れ生産性を上げていきたいと思います。それは工場だけでなく研究所、本社においてもい

▼70年の歴史の中で薬がもたらした経歴の理念、会社としての姿勢を聞かせてください。

企業理念は「内外のあらゆる技術を駆使して人の役に立ち入ることによるものを創る」。経営理念は「フライングケミカルに機軸を置き、品質と技術を結集した真の「ものづくり」に挑戦します」。また、いずれも70年の歴史の中で培われたものだと思います。

当社は戦後間もない1947年（昭和22年）たばこ香料の製造・販売を目的に「有機合成工業株式会社」として誕生しました。当時、東京大学の学生だった創業者が、独自の合成技術を駆使して世の中役に立つものをつくってほしいという思いがスタートでした。このベンチャー精神が、ものづくりにこだわる現在の当社の姿勢を受け継がれていると思います。

▼時代の要請とともに、会社はどのように変化したのでしょうか。

たばこ香料から始まり、その後、天然アミノ酸のグリシンを合成でつくって取り組み、

有機合成薬品工業 事業所一覧	
(大阪営業所) 〒541-0047	大阪市中央区淡路町1-3-7 キタデビル202 TEL 06-6229-8731 FAX 06-6229-8732
(東京研究所) 〒174-0043	東京都板橋区坂下3-37-1 TEL 03-3967-7211 FAX 03-3967-7576
(常磐工場) 〒972-8316	福島県いわき市常磐西郷町落合788 TEL 0246-42-4221 FAX 0246-44-2573
(デュッセルドルフ事務所)	Oststraße 152, 40210 Düsseldorf, Germany TEL +49-211-5665674 FAX +49-211-5665675

**有機合成薬品工業株式会社**  
YUKI GOSEI KOGYO CO., LTD.

本社 〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町三丁目10番4号  
TEL 03-3664-3980 FAX 03-3664-3998  
URL : http://www.yuki-gosei.co.jp/

#### 有機合成薬品工業の沿革

1947年	たばこ香料の生産を目的として有機合成工業株式会社創立
1952年	「グリシン」「イソニアジド」「ニコチン酸アミド」生産開始
1958年	「β-アラニン」生産開始
1960年	「2-ピニルピリジン」生産開始
1962年	現社名、有機合成薬品工業株式会社に改称 本社を中央区宝町に移転 東京証券取引所市場第二部へ上場
1963年	「トリアセチン」生産開始
1964年	常磐工場稼働開始 「ピース用香料」生産開始
1965年	「硫酸プロタミン」「MF用香料」生産開始
1971年	「グリシン」の新設備による生産開始
1975年	「農薬中間原料」「ピコリン酸」生産開始
1978年	「DNA」生産開始 常磐工場活性汚泥式処理設備完成
1984年	常磐工場に多目的製造設備新設
1985年	「シリコン関連製品」生産開始
1990年	常磐工場に医薬品中間体精製設備新設 資本金を25億5千万円に増資
1991年	本社を千代田区平河町に移転 常磐工場にケイ素・グリニャール試薬製造設備新設
1995年	本社を現所在地に移転 常磐工場に実験棟（技術開発センター）新設 常磐工場にDNA製造設備新設
1996年	2-ピニルピリジン製造設備を東京研究所から常磐工場に移設 常磐工場にISO9002認証取得 常磐工場にケイ素・グリニャール関連製品専用製造設備新設 資本金を34億7千1百万円に増資 「トリフルオロロチミン」生産開始
1998年	本社・大阪営業所・常磐工場・東京研究所で ISO9001認証取得 常磐工場に治験薬試験研究設備新設
1999年	ISO14001認証取得
2001年	フドステイン「ユーキ」生産開始 子会社「ユーキエンジニアリング（株）」が 「ユーキテクノサービス（株）」に改称 常磐工場に医薬品製造設備新設
2003年	常磐工場に品質管理棟新設
2004年	東京証券取引所市場第一部銘柄指定 統合基幹業務システム稼働開始
2006年	海外拠点として、デュッセルドルフ事務所を設立
2007年	液化天然ガス燃料転換設備新設
2012年	「ジェネリック医薬品用原薬」生産開始
2014年	コージェネレーションシステム導入